

# 町政を問う!!

11 議員が質問・提案を

## 学力問題

### 今後の取り組みは

### 学校・家庭の連携必要



おくもと てつや 議員 本 哲也

**問** 2015年学力テストの結果に基づいたこれからの取り組みは。

**答** 坂本教育長

小学校6年生と中学校3年生を対象に毎年行っている。小学校については、黒潮町は全国平均となっているが、算数Bが低くなっている。中学校については改善傾向があり、数学Aについては、全国および高知県平均を上まわっている。中学校の取り組みで教科部会を年間5回ほど実施し

ている。学力向上委員会も年間5回の活動を行っている。小中連携を意識し、共通の課題解決に各校の校内研究の質の向上に努めている。授業改善は大事だが、特に家庭の協力、家庭学習が大事になっている。放課後の加力学習指導も行ってきている。学習支援員、スクールソーシャルワーカーによる指導も行ってきている。

**問** 所得の格差が教育の格差になっている今、町として学力向上に対する新しい取り組みは。

**答** 坂本教育長

生まれ育った環境により教育の格差は生じる。特に親の年収が子どもの最終学歴に大きく影響してくる。家庭の経済力や背景が学力との相関関係にある。

基本的な生活習慣の確立には、家庭の協力が不可欠だ。また、学力支援員によるきめ細かな支援により、基礎学力の定着を図っている。学校でできる部分は、当然、学校が役割を果たすべきと考え

## キャリア教育

### 成果と課題は 町の良さ感じる 取組み必要

**問** キャリア教育に現在も積極的に取り組んでいるが、今のままで良いのか。

**答** 坂本教育長

職業観、勤労観を育む学習プランとして、小学校においては進路を探索し、選択をするための基盤形成時期と思う。現在、中学校では4つの項目により年間計画を立て、一人ひとりの自己実現が目的で取り組んでいる。中学校の職場体験、小学校の社会科見学など地域の関係機関の協力が



2015年度大方地区人権学習フィールドワークの一コマ

成果だと思っている

現在行っている取り組みをもっと充実させ、黒潮町を愛し、ふるさとに誇りを持ち、将来社会貢献できる、そういった子どもたちを育てていきたい。黒潮町の人々がどういった仕事をしているか、農業、漁業についても話を聴いたりする授業や、黒潮町について学び、黒潮町の良さを感じる取り組みも必要だと思われる。保護者、地域の方々、関係機関の協力をいただきながら充実した内容にしていきたい。